

陳 情 文 書 表

受付番号	第 1 7 号
受付年月日	令和 8 年 1 月 3 0 日
件 名	三田市民病院の統合に関して抜本的に見直しをされたい
陳 情 者	三田市 XXXXXXXXXX 浜田 弘志
	<p><陳情の要旨></p> <p>三田市30万医療圏の新病院基本計画の青写真も未だなく、年3億円の財政特別基金の積み立てもままならない財政危機にあること、三田市民病院統合にかかわる「新病院基本計画」の抜本的見直しをされたい。</p> <p>1. 三田市民病院統合の整備計画総額254億円（2022年度）から521億円に倍増したこと</p> <p>この521億円倍増は、近隣中核都市の整備計画総額と孫色なく、また、521億円の倍増にもかかわらず、民間病院との統合に関わる市民病院の清算費用（退職金手当、累積赤字等々）も示されていません。不透明すぎるもの。</p> <p>これらは、三田市一般会計当初予算案総額438億余円と宝塚市の総額は791億余万円の予算規模を対人口比（約103800：219600人）で見ると過分負担となり、行政サービスの破綻を危惧するもの。</p> <p>2. 市長の背任と議会の審査不足</p> <p>市長は統合の白紙撤回をしたが、整備計画総額に於ける市財政負担を減らす施策や姿勢もなく、市議会は整備費の膨張を鵜呑みにしたこと、神戸済生会病院の運営委託による黒字化（シミュレーション）の想定も曖昧、土地、建物の青写真もなく確信的背任が懸念されるもの。</p> <p>兵庫県下の回復期病床数1,327床の不足を勘案して、市民病院も神戸済生会病院も再活用されること。市長は、両病院の再利用性と資産価値を評価に見合う出資額を受託医療機関に課すことを図るべきでした。</p> <p>3. 兵庫県下の急性期病床過剰と新病院基本計画における入院患者想定 の危惧</p> <p>兵庫県下の病床機能分化・連携関係を重点化する急性期病床は1,571床の過剰にある。</p> <p>三田市民病院長、三田市長、神戸市長、済生会兵庫県病院長の四者協議による新病院基本計画の入院患者想定が少ない。集中治療室25床と一般病床400床の合計425床に対して、入院患者想定が330床から362床となっている。</p>
付託委員会	経営政策常任委員会